

# 第8期 定時株主総会

2019年6月21日(金)



**サノヤスホールディングス株式会社**

# 報告事項

第8期（2018年4月1日～2019年3月31日）

- ・事業報告
- ・連結計算書類及び計算書類

事業の経過及びその成果からご説明申し上げます。

# 当社グループを取り巻く経済環境



## 世界経済



米国の雇用環境の良好な状態から、景気は堅調さを維持

## 我が国経済



雇用環境の改善を背景に底堅さを維持

## 事業環境

### 造船事業



### M&T事業

船腹及び建造設備の「2つの過剰」という構造が依然として継続

国内首都圏は建設工事で活況、インバウンドと輸出による化粧品市場、レジャー市場が拡大

当期における世界経済は、米国では良好な雇用環境が続き、景気は堅調さを維持している一方、中国では米国を発信源とする通商問題がエスカレートするなど、先行きの不透明感が増しつつあります。

その中でわが国経済は、輸出が伸び悩んだものの、雇用環境の改善を背景に底堅さを維持しました。

当社グループを取り巻く事業環境は、造船事業においては、船腹及び建造設備の「2つの過剰」という構造が依然として継続し、厳しい状況が続いています。バルクキャリアーの海運市況は、2018年内はゆるやかな回復基調にあったものの、2019年は年明け以降弱含みで推移しています。

M&T事業においては、首都圏を中心とした建設工事の活況、インバウンドと輸出が牽引する化粧品市場の拡大、訪日観光客の増加による遊園地への来場者増加など、マーケット環境は良好に推移しました。

# 造船事業 新造船 新船型開発



## 新82型パナマックス・バルカー 新64型スプラマックス・バルカー

・環境規制、構造規則の新規則を適用、燃費性能向上

## 41型ハンディサイズ・バルカー

・幅広・浅喫水で大容量化を図り新規制を適用



Sanoyas Holdings Corporation

4

当社の造船事業における新造船では、3つの新船型を開発しました。

得意船型である新82型パナマックス・バルカーと新64型スプラマックス・バルカーは、環境や構造の新規則の適用条件を満たした上で、燃費性能についても向上させました。

また、幅広・浅喫水で大容量化を図った新規制適用の41型ハンディサイズ・バルカーを新規開発し、ラインナップを拡充しました。

## 建造メニューの多角化

- ・フェリー、特殊船、作業船

## 船用LNG燃料供給システム

- ・住友精化株式会社と共同開発、販売拡大

## LPGタンク製造

- ・大阪製造所(大阪市)に加え、水島製造所(岡山県倉敷市)でも製造を決定



また、造船事業では多角化を推進しています。

建造メニューの多角化としては、フェリーや特殊船、作業船などの営業を展開しています。

船用LNG燃料供給システムは、住友精化株式会社と共同開発した新システムですが、すでに1件の実績が上がっています。

LPGタンクの製造に関しては、現在の大阪製造所に加え水島製造所(岡山県倉敷市)でも製造することを決定し、事業強化の準備を進めています。

# 事業グループ再編



陸上事業



レジャー事業

2018年4月 M&Tグループとして再編  
(サノヤスMTG株式会社設立)

事業グループの再編にも取り組みました。

これまで陸上事業及びレジャー事業を「第二のコアビジネス」として位置付け、事業の多角化に取り組んで来ました。これを一層強化するため、両者を2018年4月2日に統合し、M&Tグループとして再編しました。

また、同グループを統括・支援する会社としてサノヤスMTG株式会社を同日設立しました。

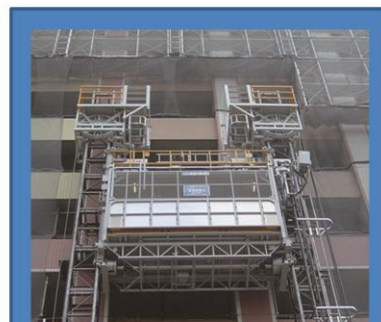
# M&Tグループの組織再編



サノヤス・エンジニアリング  
株式会社



株式会社大鑄



サノヤス建機株式会社

2019年4月合併

2020年4月合併予定

サノヤス・エンジニアリング株式会社

Sanoyas Holdings Corporation

7

続いて、M&Tグループの組織再編についてご説明いたします。

M&Tグループに属する子会社のうち、機械駐車装置の製造及び保守を手掛ける「サノヤス・エンジニアリング株式会社」、ショットブラストマシンの製造を行う「株式会社大鑄」、建設工事用エレベーターの製造及びレンタルを手掛ける「サノヤス建機株式会社」の3社を統合します。

新会社を機能別組織に再編し、経営の効率化や人財の最適配置を進めるとともに、製造工場を共同利用するなど、事業構造の強化・拡充を行います。

サノヤス・エンジニアリング株式会社と株式会社大鑄は2019年4月に合併し、サノヤス建機株式会社は2020年4月に合併を予定しています。

# M&Tグループの組織再編



2019年4月合併

株式会社サノテック

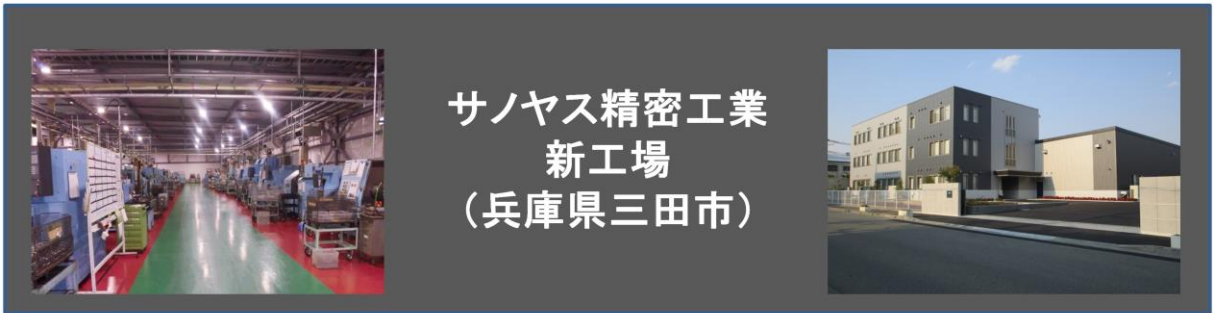
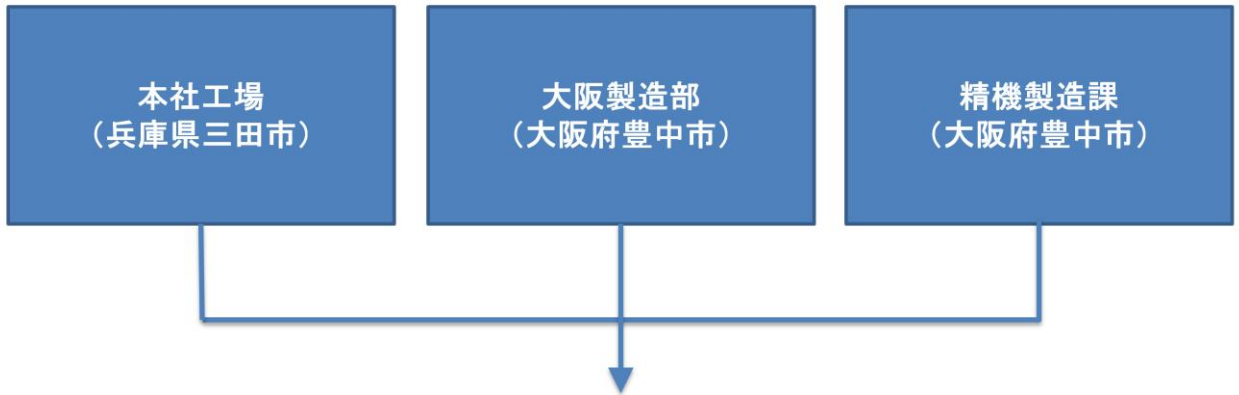
「株式会社サノテック」はソフトウェアの開発等を行い、主にサノヤスグループ向け事業と、一般顧客向け事業で構成されています。

このグループ向け事業につきましては、システムエンジニアを、グループ内に全体最適の視点から効果的に配置しました。

また、一般顧客向け事業を残した同社と、船用資材の売買等を行う「サノヤス・ビジネスパートナー株式会社」は2019年4月1日に合併しました。



# 生産拠点の集約: サノヤス精密工業



精密機械加工を主業としている「サノヤス精密工業株式会社」は、生産効率の一層の向上を図る目的で、関西の3つの生産拠点を兵庫県三田市に集約し、新工場の建設を進めてきました。

2019年3月に二期工事が完成し、移転が完了しました。

# M&T事業の業績



## 底堅い内外需を背景に堅調に推移



建設工事用エレベーター



空調・給排水工事



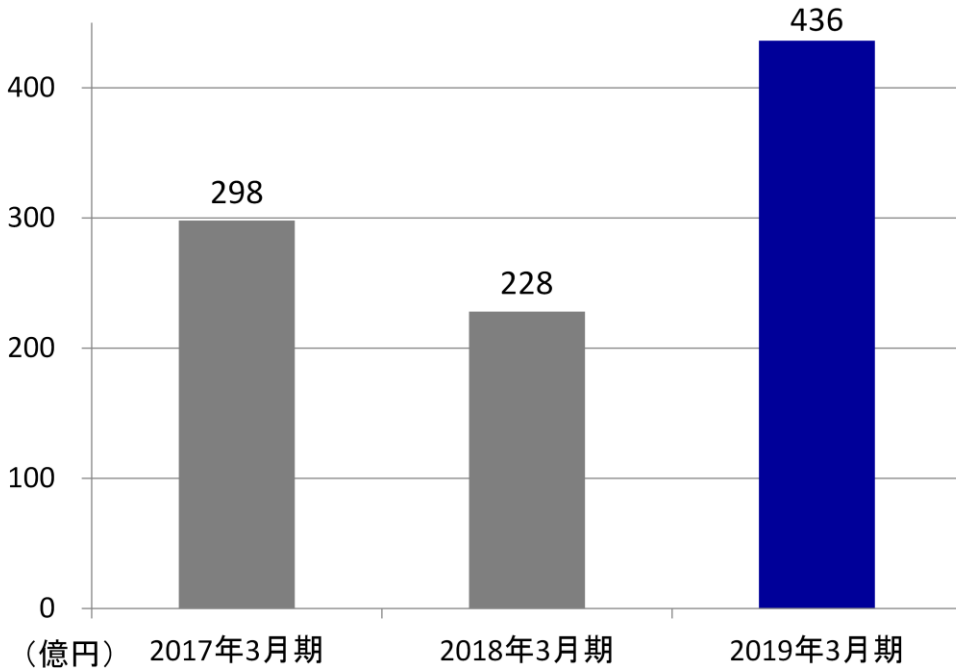
化粧品製造用の乳化装置・攪拌機



遊園機械

M&T事業では底堅い内外需を背景に、建設工事用エレベーターの販売・レンタル、空調・給排水工事の設計及び施工、化粧品製造用の乳化装置・攪拌機の販売、遊園機械の販売等が堅調に推移しました。

# 連結受注高



Sanoyas Holdings Corporation

11

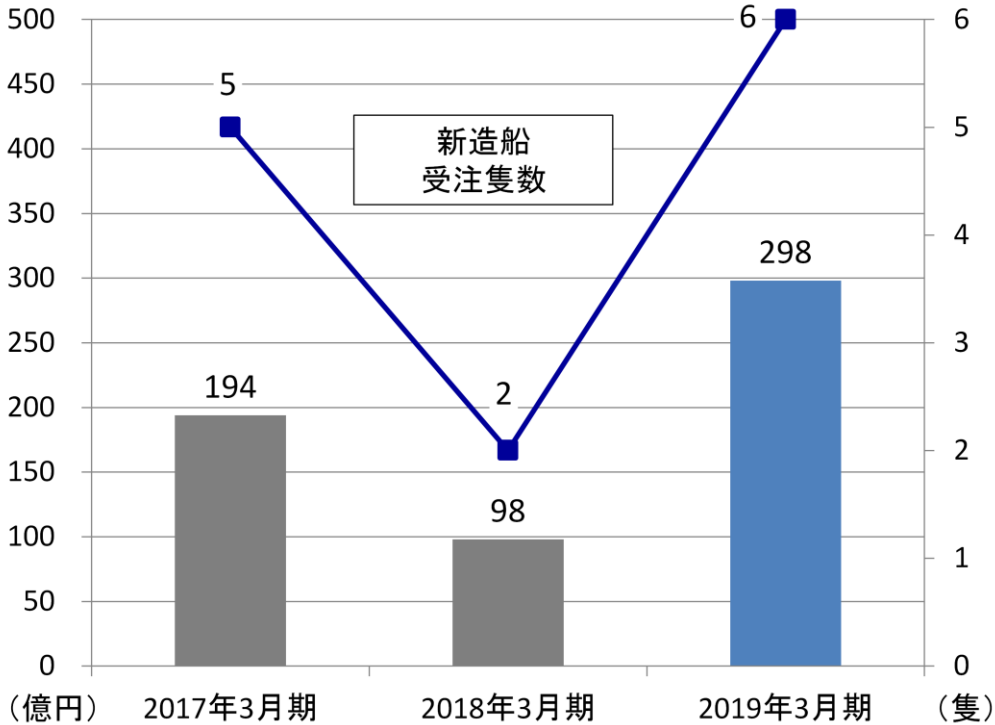
当期の経営成績について、ご説明いたします。

なお、スクリーンまたはお手許にお配りしています資料の記載金額は、1億円未満を切り捨てています。

まず、当期における連結受注高は前期比208億円(91.2%)増加の436億円となりました。

続いて、セグメント別業績についてご説明いたします。

# 受注高(造船事業)



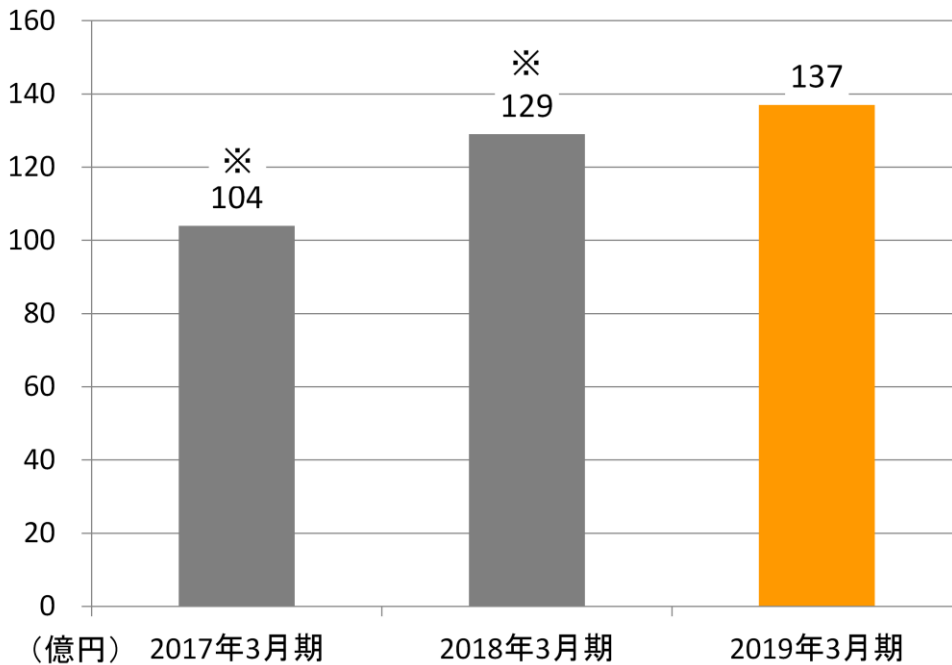
造船事業では、受注高は前期比199億円(202.6%)増加の298億円となりました。

船の供給過剰が解消せず、依然として船価の回復が見られない状況が継続していますが、2018年内はゆるやかな回復基調が見られました。

そのような状況下で受注活動に努めた結果、新82型パナマックス・バルカー6隻を受注し、新造船受注隻数は前期比で4隻増加しました。

受注は市況動向を見極めながら臨機応変に対応し、受注残高を約2.5年分確保するよう引き続き注力して参ります。

# 受注高(M&T事業)



※旧陸上・レジャー事業の合算数字

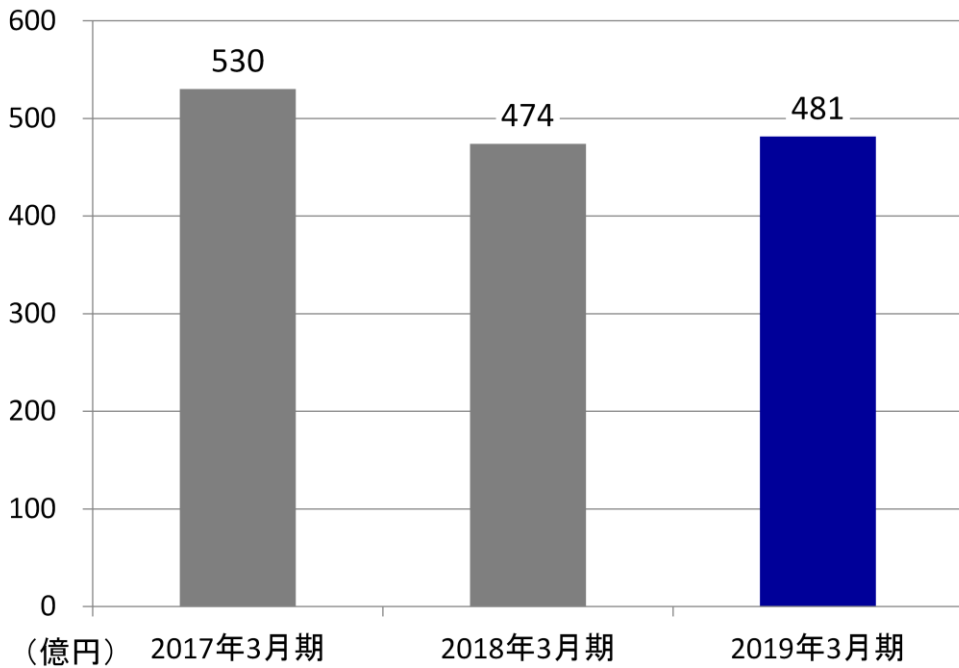
M&T事業では、受注高は前期比8億円(6.3%)増加の137億円となりました。

なお、2018年4月2日付で陸上事業とレジャー事業をM&T事業に統合したため、2018年3月期以前のセグメント業績は、両事業を合算した数値としています。

化粧品市場の拡大により、化粧品製造用の乳化装置・攪拌機の受注が大きく伸びました。また、近年力を入れてきた機械式駐車装置の修繕工事も好調でした。

新規事業では、津波避難用救命艇の販売に注力し、受注に繋がりました。

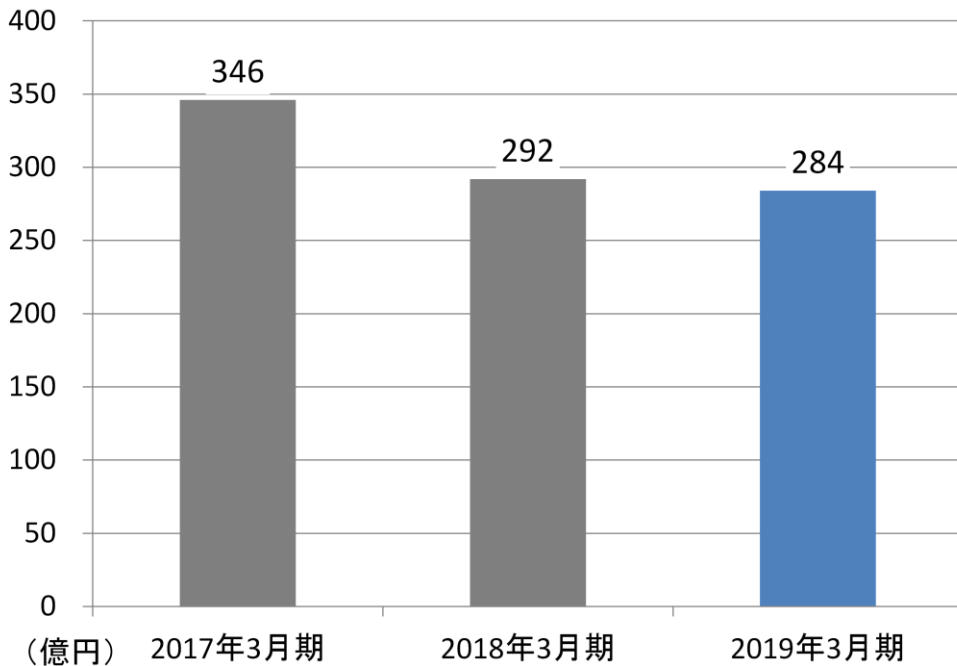
# 連結売上高



当期における連結売上高は前期比6億円(1.5%)増加の481億円となりました。

セグメント別業績についてご説明いたします。

# 売上高(造船事業)

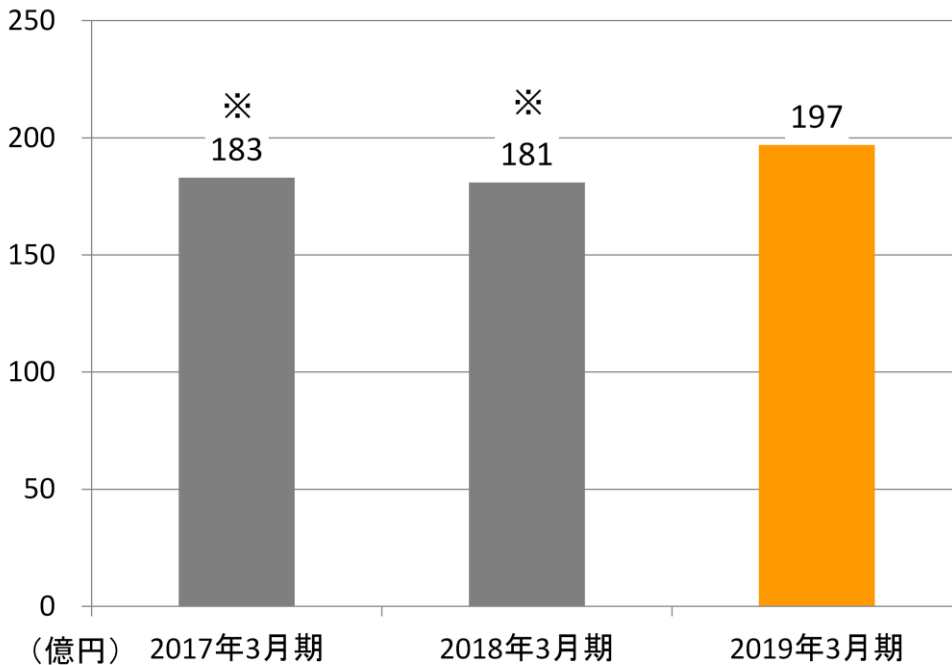


造船事業では、売上高は前期比8億円(2.9%)減少の284億円となりました。

新造船は工事進行基準を適用しており、年間7隻の建造ペースを維持しています。

一方、マリン・修繕船では、修繕船等が順調でしたが、LPGタンクの製造が伸び悩みました。

# 売上高(M&T事業)



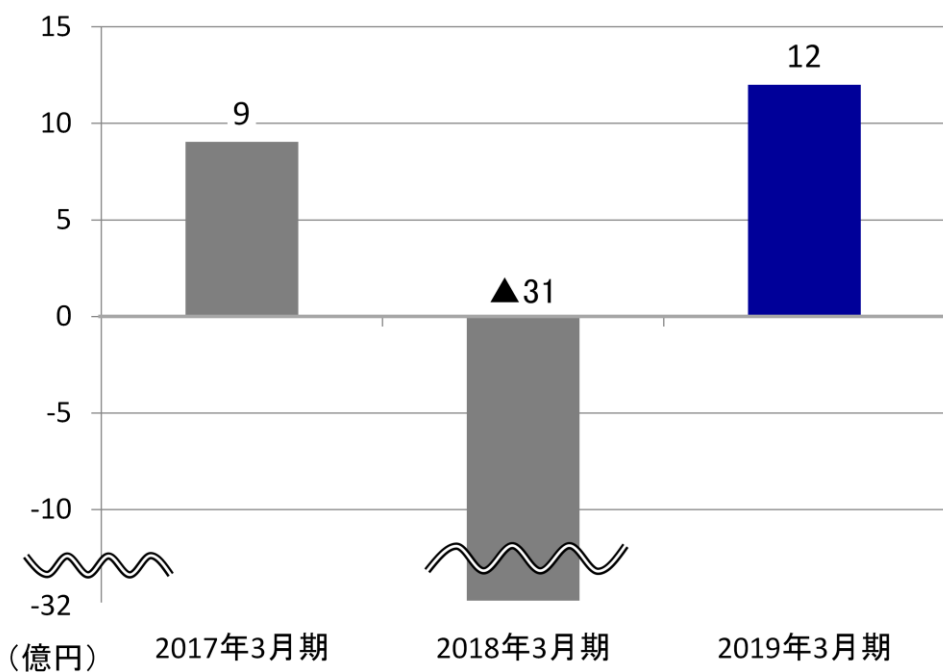
※旧陸上・レジャー事業の合算数字

M&T事業では、売上高は前期比15億円(8.5%)増加の197億円となりました。

国内の設備投資が堅調に推移する中、建設工事用エレベーターと化粧品製造用の乳化装置・攪拌機の販売が好調でした。また国内の遊園機械の販売も好調に推移しました。



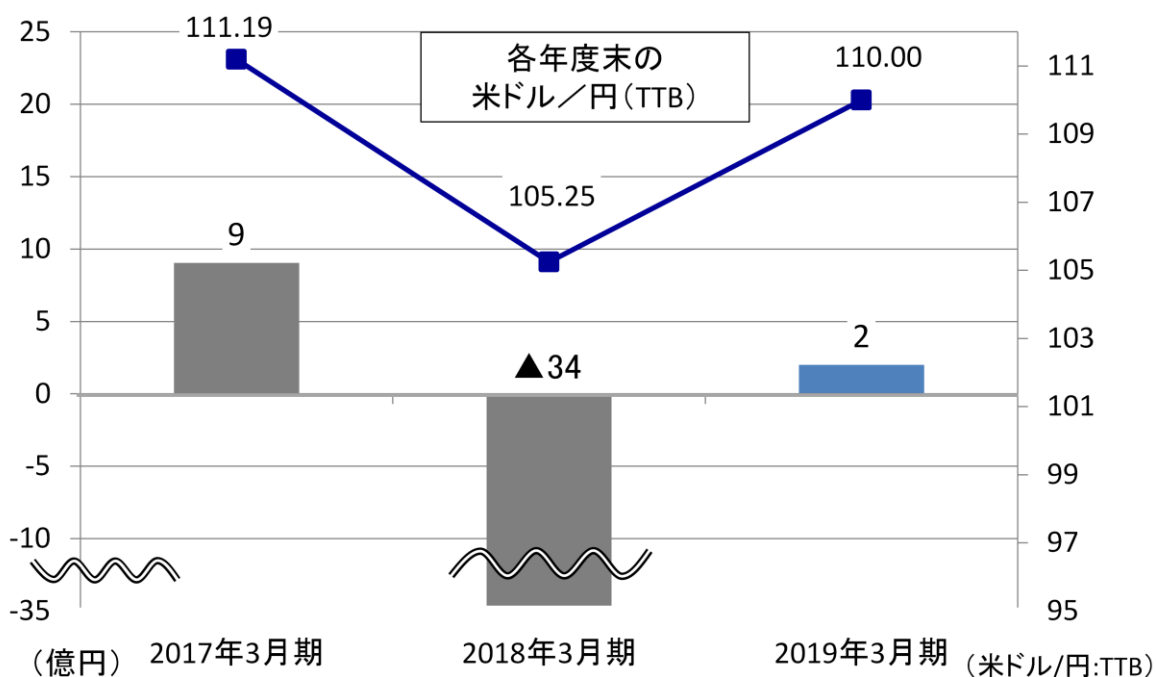
# 営業利益(連結)



当期における連結の営業利益は12億円となりました。なお、前期は31億円の営業損失でした。

セグメント別業績についてご説明いたします。

# 営業利益(造船事業)



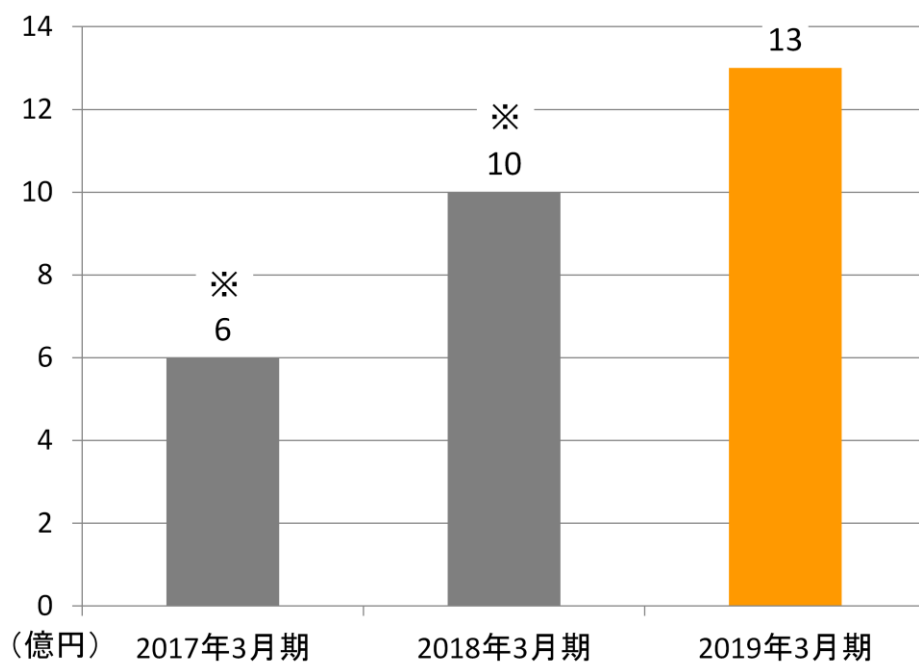
造船事業では、営業利益は2億円となりました。なお、前期は34億円の営業損失でした。

鋼材価格が上昇しましたが、そのような状況下で、間接部門のスリム化などを推進しました。

また、売上の大半を占める新造船は、輸出比率が高く、米ドル建ての契約が大宗を占めており、業績はドル円相場に大きく左右されます。

為替レート(TTB)が2018年3月末1米ドル105円25銭から2019年3月末110円00銭へ円安に振れたため、営業利益が改善しました。

# 営業利益(M&T事業)

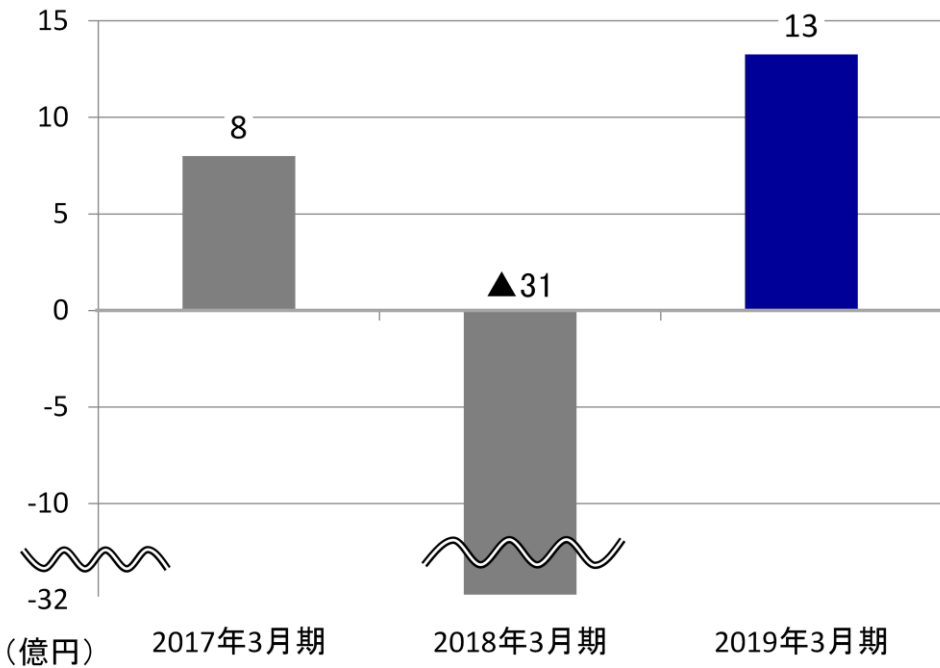


※旧陸上・レジヤ事業の合算数字

M&T事業では、営業利益は前期比2億円(30.0%)増加の13億円となりました。

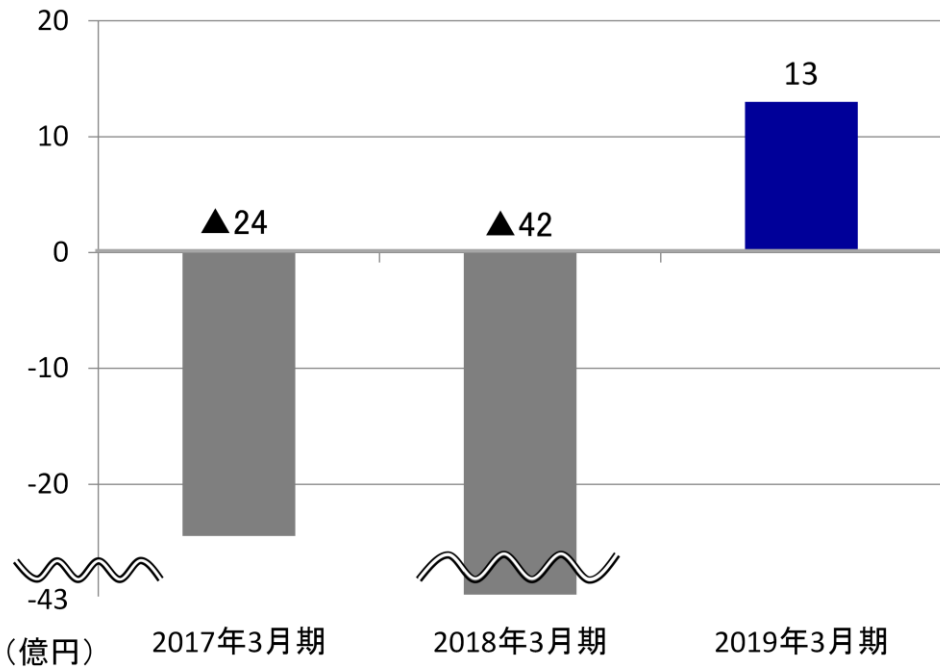
建設工事用エレベーター、化粧品製造用の乳化装置・攪拌機の販売、空調・給排水の設計施工が好調でした。

# 経常利益(連結)



当期における連結の経常利益は13億円となりました。なお、前期は31億円の経常損失でした。

# 親会社株主に帰属する当期純利益(連結)



連結の親会社株主に帰属する当期純利益は13億円となりました。なお、前期は42億円の赤字でした。

「設備投資の状況」、「資金調達の状況」以下の事項につきましては、お手許の招集ご通知及び当社ウェブサイトに記載しております。次に、連結計算書類及び当社単体の計算書類の概要をご説明申し上げます。

# 連結貸借対照表



(億円)

資産の部		負債の部	
流動資産	411(▲13)	流動負債	312(▲10)
		固定負債	212(▲7)
		負債合計	524(▲17)
固定資産	259(+8)	純資産の部	
		純資産合計	146(+12)
資産合計	671(▲5)	負債及び純資産合計	671(▲5)

Sanoyas Holdings Corporation

22

連結貸借対照表につきまして、その要点をご説明申し上げます。

先ず【資産】について、当期末における流動資産は、411億円となり、前期末に比べて13億円減少しました。固定資産は、259億円となり、前期末に比べて8億円増加しました。

次に【負債】について、当期末における流動負債は、312億円となり、前期末に比べて10億円減少しました。固定負債は、212億円となり、前期末に比べて7億円減少しました。

続いて、当期末における【純資産】は、146億円となり、前期末に比べて12億円増加しました。

# 確かな技術に まごころこめて



**サノヤスホールディングス株式会社**

連結損益計算書につきましては、先程ご報告申し上げたとおりです。

当社単体の貸借対照表及び損益計算書につきましては、お手許の招集ご通知29ページ及び30ページに記載のとおりです。

また、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表並びに株主資本変動計算書及び個別注記表については、当社ウェブサイトに掲載しています。

以上、事業の経過及びその成果、連結計算書類及び計算書類等について、ご報告申し上げます。